

本年度総会は、5月15日、御来賓に村下貴夫県議会議員様のご臨席を賜り、多くの会員のご出席を得て養老町中央公民館にて開催致しました。大橋孝町長様・並河清治教育長様は、町議会開会中のため、ご臨席を賜ることができませんでした。村下県議からは、毎年10月17日に行われている「養老公園開園式典」について、お話をいただきました。

私からは、現在、養老町文化財審議委員会をお勤めで、本会元副会長の水谷田鶴子氏が、岐阜県文化財保護協会から、この度「功労者表彰」を受賞さ

第151号
令和元年10月1日発行
養老町文化財保護協会

も く じ

- ・2021年に向けて……………会長 小野 俊彦 四一九
- ・『遺跡から見る養老町の歴史』……………養老町教育委員会 廣瀬正嗣氏 四二〇
- ・『祝』水谷田鶴子さん 岐阜県文化財保護功労者表彰……………会長 小野 俊彦 四二二
- ・文化財の保護と巡視活動の意義……………当協会役員〈巡視活動部〉安福 隆司 四二二
- ・『聖武天皇巡幸記念碑』周辺の清掃活動の実施について……………広報・記録部会 四二三
- ・当協会組織体制変更の主なポイント……………広報・記録部会 四二四
- ・文化財保護協会新規会員募集チラシを更新しました……………広報・記録部会 四二四
- ・会報『養老町の文化財』の電子化について……………広報・記録部会 四二四
- ・春の現地研修 大津市歴史博物館・大津市曳山展示館・石山寺を訪ねて……………広報・記録部会 四二五
- ・編集後記……………広報・記録部会 久保田隆基 四二八

れた旨ご報告を致しました。その後、総会議事一般が行われ、議事終了後、養老町教育委員会 学芸員 廣瀬正嗣氏による「遺跡から見る養老町の歴史」と題するご講演をいただきました。(詳細は次頁参照)

さて、ご承知のように、養老には奈良時代に、二聖の御臨幸を賜り、「多芸七坊」の七堂伽藍が光り輝く地でありました。その後は、西濃湿地帯に在り、河川の氾濫洪水で輪中に依り、水との戦いは、廣瀬学芸員のご講話のとおり暮らしてました。

しかし、江戸時代養老孝子伝が「大日本史」に採収され、「十訓抄」・「古今著聞集」にも記載され、謡曲「養老」により、『養老の景勝ぶり』が喧伝されました。田沼意次の時代(明和年間・一七〇〇年代後半)に個人の方で養老の瀑水と温泉開発が行われ「千歳楼」もこの頃に建てられました。

一八八〇(明治13)年10月17日、民間会社の方で「養老公園」が誕生し開園式典が行われました。現在も毎年10月17日に開園式典が行われているのは「養老公園」が誕生したこの日を受け継いでい

るものです。

一八九七(明治30)年郡制により、「養老公園」は郡費で管理されることになりました。

明治時代には、松方正義を始めとする明治の元勳が、次々と養老を訪れ、一九一〇(明治43)年には、当時の



《5月15日総会冒頭で挨拶される小野会長》

皇太子(後の大正天皇)が、観瀑に御来幸されました。

一九二三(大正12)年養老郡に依っていた運営が県による運営へと「岐阜県宮公園」に移管され、今年で96年になります。一八八〇(明治13)年10月17日に養老公園という名称が誕生して139年、来

年は140年を迎えます。「養老公園開設140年」を記念して養老町では「大焼肉大会」を開催する計画があるようです。

さて、私たちの「養老町文化財保護協会」の誕生50年について確認を行います。

一九七二（昭和46）年9月1日発行の機関紙「養老町の文化財」誌上で、初代会長の村上弁二氏が「一九七二（昭和46）年5月22日、養老町文化財保護協会が誕生し、岐阜県文化財保護協会養老町

支部として発足」と記してみえます。この記述を元に、協会創立五〇周年を数えますと「二〇二一年」です。

会員全員の一人一人が『知恵を出し、思いを籠め、心に残る』養老町文化財保護協会のみが行える「50周年記念事業」を作り出したい、と思っています。

皆で知恵と汗を出し、五〇年に一回のイベントを楽しく取り組みたく思います。

〔5・15総会講演〕 『遺跡から見る養老町の歴史』

養老町教育委員会 学芸員 廣瀬 正 嗣 氏

養老町は、日本列島の中央付近に位置し、南に伊勢湾、北に若狭湾、その間には琵琶湖があるため、陸地がとて狭い場所にあります。

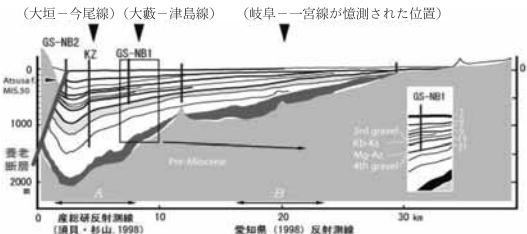
特に、養老山地と伊吹山地が南北に隣接し形成する地峡帯は、現在も東海道本線や東海道新幹線、名神高速道路、国道21号線が通っており、古くから東西交通や軍事の要衝でした。

さらに、養老町は断層活動によって険しい山地と平らな低地の両極端な地形を呈しており、その地下深くでは平野側の地盤が沈下しているため、そこへ河川を中心とした土地形成営力（地質学的現象を起こす自然の力）によって多量の土砂が運ばれてくる構造をもっています。

よって、地球の歴史で見ると非常に短時間に土地の形成が進んだ地域と言えます。

例えば、縄文時代の養老町を見ると、旧石器時代に大陸と繋がっていた日本列島に海が入り込み、養老町の大半も海に沈みました。

最も海が拡大した約6400年前には、J R 東海



濃尾平野の地下構造（須貝 2001 を基に作成）

道本線付近まで海が入り込んでいたと推定されています。しかし、それ以降は河川による土砂運搬により三角州帯が形成され、再び海は遠ざかります。

そして、弥生時代になると、河川の中・下流域の段丘化が進み、三角州帯が成長するため、徐々に陸地が広がりましたが、現代に比べると、海は依然と内陸部に入り込んでいました。

よって、養老町は周辺地域と海でつながっており、太平洋側と日本海側を船運で結ぶ交通の要衝として機能していました。

この時代の遺跡は、日吉地区をはじめ、小畑・室原・多芸東部・養老・上多度地区など広い範囲で見つかっています。特に、養老町宇田周辺に広がる「日吉遺跡」は、弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての集落遺跡で、大量の土器や木製品が出土しています。（次頁上段写真参照）

また養老町橋爪には70基にのぼる墳墓が確認され、この時代の養老町が大きな勢力を持っていた



《廣瀬さんの説明に聞き入る参加者》

ことが明らかとなっています。

古代の養老町は壬申の乱に大きく関わったほか、元正天皇・聖武天皇の行幸があり、前代と変わらず重要な地域だったことが分かります。

養老町石畑にある戸関遺跡は、聖武天皇がこの地を訪れた8世紀中頃から9世紀初頭にかけての資料が、多く確認できています。

さらに、遺跡の範囲内には、当遺跡の名称にもなった戸関の小字名を中心に、中門や東門、南門といった小字が配置されていることから、官衙や寺院の様な性格が推測できます。

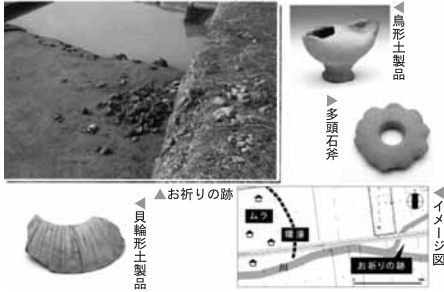
中世になると、養老町には多くの河川が集中し、関ヶ原を通じて近江に往来できたことから、社会的役割はより高まっています。

そのため養老町に分布する中世遺跡には川を意識した立地をとるものが多くあるほか、中世山岳寺院も最盛期を迎えました。この頃の地形環境を見ると、河床が低下し、段丘面と氾濫源が区別された結果、河川の流路が安定します。

そのため、当時の地名の中には

「室原郷」や「嶋田郷」など、現代まで続くものも確認できます。

日吉遺跡



近世になると、統一政権の成立や社会の安定に伴い、堤による河川流路の固定による居住域や耕地の拡大が行われます。

しかし、結果的に河川の天井川化や地下水位の上昇を引き起こし、河川の堆積をより下流に向かわせ、結果として築堤一帯の低湿地化や洪水の危険性を増大させる一面もありました。

そして、輪中が形成され、養老町は永く治水問題に取り組むこととなります。

以上、旧石器時代から近世に至るまでの養老町の変遷を、遺跡の消長を交えて振り返りましたが、その地形環境から時代毎に大きく姿を変化させてきた養老町が見えてきました。

今後も遺跡の調査結果や、中近世の古文書などの資料を蓄積しつつ、養老町の歴史や文化について考えていきたいと思っています。

《祝》水谷田鶴子さん
 岐阜県文化財保護功労者表彰
 会長 小野 俊彦

はじめに
 養老町文化財保護審議会委員で、本会元副会長の水谷田鶴子さんが、六月十一日、岐阜県文化財保護協会通常総会に先立って行われた表彰式で、表彰されました。

本年は、一団体と4人の個人の方が、表彰を受けられました。団体は美濃市の街並み案内ボラン

ティアの会で、個人は本会の水谷さん、そして文化財保護巡視員の方が3人でした。

水谷さんは、多年にわたって、地域の文化財保護にご活躍され、さらに宝曆治水で犠牲となられた、薩摩義士の顕彰活動を広く行なってこられたことが表彰対象となりました。

小学校の特別授業や運動会・公民館活動としての町民大学、さらに各種会合では出し物として、薩摩義士の歌や踊りを披露されてきました。

また、自宅には薩摩義士展示館を設け、義士に
 関係のある物や遺品を公開され、敷地内には義士の墓が祀られています。養老町内では、薩摩義士の遺徳が自然な形で受け入れられ受け継がれています。これは、水谷田鶴子さんの長年にわたる地道な活動に因る処が大と思われれます。

方は、本
 協会初代
 会長村上
 弁二氏が
 始まりで、
 水谷田鶴
 子さんで
 26人目で
 す。(次頁
 に表彰年・
 ご芳名記
 載)

[左端が受賞された 水谷 田鶴子さん]

中日新聞 2018年10月25日(木) 朝刊



水谷副住職の説明を聞く児童ら13日、養老町根古地の天照寺で

神社や水害跡地訪れ
地域の歴史文化を学ぶ
養老の池辺小虎墓ら
地域を歩いて歴史や文化を学ぶ「寺子屋池辺三世代ウオーキング」が、養老町池辺小学校の校区内であった。全校児童百六十三人が十二地区に分かれ、保護者らと一緒にそれぞれ

計画。二時間ほどかけて神社や水害の跡地などを訪れ、地元の人たちから解説を受けた。

江戸時代の木曾三川改修工事「宝藤治水」で犠牲となった薩摩義士の墓が残る天照寺では、副住職の水谷田鶴子さん(へみ)が過酷な工事で責任を感じて切腹した人もいたことなどを説明。児童たちは義士の位牌に手を合わせた。

三年の植田露叶さんは「いろんな人が亡くなったのはかわいそうと思った。(工事の成果が)わたしたちの暮らしを守ってくれているのでありがたい」と話した。(生田貴士)

↑ 地元新聞で紹介された天照寺と水谷さん

《岐阜県文化財保護功労者... 養老町関係分》

No	西暦	表彰年	氏名(敬称略)
1	1974	昭和49年	村上 弁 二
2	1976	昭和51年	中 村 準 一
3	1979	昭和54年	中 村 上 肇
4	1980	昭和55年	内 堀 保 一
5	1981	昭和56年	日 比 屋 次
6	1983	昭和58年	田 中 育 次
7	1984	昭和59年	香 川 義 昌
8	1985	昭和60年	大久保 源 吾
9	1986	昭和61年	安 福 彦 七
10	1987	昭和62年	古 川 寿 郎
11	1988	昭和63年	日 野 泰 道
12	1989	平成元年	細 川 勇 一
13	1990	平成 2年	中 島 景 治
14	1991	平成 3年	千 丹 誠 誠
15	1992	平成 4年	藤 田 信 治
16	1993	平成 5年	田 中 憲 策
17	1994	平成 6年	大 橋 慎 一郎
18	1995	平成 7年	高 木 善 吾
19	1996	平成 8年	村 上 喜 代 志
20	1997	平成 9年	後 山 藤 有 一
21	1998	平成10年	藤 口 康 易
22	1999	平成11年	山 宮 島 貞 男
23	2000	平成12年	猿 井 正 一
24	2011	平成23年	安 田 綱 一
25	2012	平成24年	富 永 覚 一
26	2019	令和元年	水 谷 田 鶴 子

養老町内には国指定・県指定・町指定合わせて二〇五件の重要文化財があります。この貴重な文化財は、養老町の自然の中で先人のためまめ努力によって今日まで受け継がれてきました。私達は文化財の保護を唱えています。対象は仏像、天然記念物、建築物、無形文化財等多様であります。それらについて単に文化財の歴史的価値を保護するだけでなく、この文化財を、今まで先祖の方達がどんな思いで今日まで、私達に伝えようとしてきたかというのを察し、その思いを次世代に伝えて行くことも文化財保護の大切な役割ではないでしょうか。

文化財の保護と巡視活動の意義

養老町文化財保護協会巡視員(巡視活動部会) 安福隆司

郷土の文化財を守り子供達に伝える事、また、ふるりの文化財を再発見して守って行く事も重要である。ここで私達の役割として、一番近い所にある文化財をもっと多くの人に知って貰い、郷土の誇りと愛情を育むと同時に、ふるさと教育を推進する事になればと思っています。この様に大切なものである事が地元ではあまり知られておりません。

岐阜県文化財保護協会では、史跡・建造物・天然記念物等の保護活動には、巡視員を任命し文化財保護に力を入れてきました。

養老町文化財保護協会でも平成二十八年度に当協会高木吉一副会長の提案に依って、当協会の自主活動として県指定文化財の巡視員一名・町指定の文化財巡視員二名で巡視活動を行う体制が出来ました。

巡視の対象は養老町指定の史跡及び天然記念物三十一件、巡視時期は雪解け後の三月と台風シーズン後の十一月の年二回実施します。二名が其々分担し、現地に赴きカメラとチェックシートを手元に文化財の状況確認、愛護標柱は木柱か石柱か、地域の方の理解に依る管理状況・更に説明板等の有無について調査をしています。

今回はその内容と対象物件に辿りつくまでのア

クセス等巡視活動と結果も含め、二つの町指定重要文化財を紹介いたします。

この文化財の内容につきましては、平成四年に養老町教育委員会が発刊した「養老町の文化財」を参考にさせて頂きました。

なお、文化財巡視活動の詳細につきましては、当協会会報147号(29・10・1発行)『文化財巡視活動から』P387(P389)でも紹介されておりますので、ご参照下さい。

其の一 『直江志津日本刀鍛錬所跡』史跡 直江区

養老町の南直江に所在するもので、名匠正宗十哲の一人、志津三郎兼氏は元大和の人、後に養老山麓の志津へ移住し鍛刀に努め多くの名刀を残しました。

兼氏の二男兼俊は(一説・弟)その頃、三湊(船附・栗笠・烏江)が開け、舟便が利用出来る様になった直江村に、弟子を連れて移り住み直江六郎と名のり兼友や、門弟の兼利・兼仲・兼則・兼長らと共に盛んに鍛刀し後世に「直江志津」と呼ばれる名刀を残しました。

この鍛錬所跡の近くには直江志津派の墓地群も残っています。この地へのアクセスは非常にわかり難い場所、牧田川の南側堤防下の小さな林の中にあり、一見この周辺からは何も見えません。距離は堤防下から約二十メートル位、辿りつけばこの史跡標柱の後には雑木雑草が繁茂しており、鎌や鋸の携行が必要かと思えます。

今回特別巡視で訪れた時は、墓地関係者の方で

清掃されたのか、きれいにされていました。説明板や標柱等は有りませんが、史跡標柱の側面に説明文が刻まれています。

其の二 『蛇持経塚跡』史跡 養老町蛇持区

養老街道色目橋を東へ三〇〇メートルの地点、南側に貴重な「柿経(コケラギョウ)」の出た池があります。

一九三三年(昭和八年)、低地干拓事業でおおよそ八メートル位の池底を掘削していたところ、「柿経」がたくさん発掘されました。

この池は古い時代から有りましたが、現在は排水機が設置され遊水池として大切な役割を果たしています。

古びやかなこの池をじっと眺めていると何やら昔の面影が、目に浮かんで来ようようです。

柿(コケラ)とはヒノ木の薄い板の事で、これに墨で経文を一行ずつ書いたものが「柿経」です。経文は古来十七字詰で書かれるもの、「柿経」の寸法は、長さ約二十四cm、幅1cm、厚さは1mm足



其の一

(名称) 直江志津日本刀

鍛錬所跡

(時代) 南北朝(室町)

(養老町指定年月日)

昭和三十八・六・一四



其の二

(名称) 蛇持経塚跡

(時代) 藤原

(養老町指定年月日)

昭和三五・七・一八

らずのもので、頭は山形に切っており、経文を写真して埋める事を「埋経」と言い、仏の教を永久に伝える為に「埋経」しその功德に依って、自分と他の人の迷いを断ち切る事の願いでした。「柿経」も「埋経」も同じ意味で平安期盛んに行われていました。

この文化財にも愛護標柱や説明板はありませんが、史跡標柱の側面に説明文が刻まれています。

高い堤防の下法面は雑草に覆われ、中々近寄り難いところに有り、足元に十分注意が必要です。

この様に担当物件ごとのチェックリストに状況を記入し、写真を撮りながら観察を行うものです。

十二月には二名の巡視結果三十一件全てを報告書に纏め、当協会会長に提出し養老町教育委員会を通して岐阜県文化財保護協会へと送られます。

『聖武天皇巡幸記念碑』周辺の
清掃活動の実施について
《広報・記録部会 久保田隆基》

五月二十七日(月)朝10時から、昨年(平成三十年)七月十三日に当協会の請願により建立された『聖武天皇巡幸記念碑』(養老公園高林地区)の本年度第一回目の清掃活動が実施されました。

当日は、小野会長をはじめ五名の理事により、周辺部分を含めて草刈り清掃が行われました。(次頁参照)

また、同敷地内には、新しい桜木(若木)が数本植えられていたのが印象的でした。

あわせて、当碑への誘導案内板が近くにないため「県等へ案内板設置を要望する」ものとなりました。

本碑は、平成二十七年八月臨時理事会に、養老改元1300年祭協賛事業として「記念碑建立の件」が付議され、当協会会員の積立金を財源として、紆余曲折を経ながら、建立されたものであり、今後も定期的に清掃活動を実施する予定です。

〔追記〕八月五日(月)午前に、第二回目の清掃活動が理事六名により実施されました。



5/27 碑周辺を清掃する理事さん

『聖武天皇巡幸記念碑裏面銘文』

記念碑裏面には左記の銘文が付されています。

『天平十二年(西暦七四〇年)聖武天皇巡幸の際に、天狗の小場と称されるこの辺りに行宮が造営され十一月二十六日から四日間駐留されたと伝えられている。』

『京ヶ脇と言う地名もここから起きたと推定されている。』

《当協会組織体制変更の主なポイント》

於3/20理事会

個人管轄の組織体制から業務別の組織体制へ変更
〈一年間の試行期間を経る〉としています。

※理事は、いずれかの部会又は

事務局に参加します。

※各部会・事務局には(長)を置きます。

①(旧)事務局「編集・広報」

↓広報・記録部会〈名称変更〉

②(旧)事務局「研修」↓研修部会〈名称変更〉

③巡視活動部会〈新設〉

文化財保護協会新規会員募集チラシを
更新しました。

ー広報・記録部会ー

この度、「会員募集チラシ」を作成(更新)しました。

○活動内容のご説明にご利用下さい。

○「申込書」を下欄に設欄しました。

○中央公民館事務局内当協会函への「申込書」提出も可能となりました。

養老町文化財保護協会では、
「新編会員」を募集しています。
※お問い合わせ先：文化財保護協会事務局

① 活動内容
 ② 会費
 ③ 申込書

新チラシ (A4判です)

会報『養老町の文化財』の
電子化について

広報・記録部会 久保田隆基

この度 当協会の機関誌である会報『養老町の文化財』の150号(現行全頁)の電子化(USB登録)を致しました。

これにより 従来の紙ベースに加えてパソコンでの閲覧が可能となり利便性向上に大いに寄与するものと期待されます。

〈電子化の内容について〉
○データの構成について

ア)発行済みの会報『養老町の文化財』のすべての頁をスキャンし、発行号単位毎にフォルダーに格納し発行日・発行号数をあわせて記載しました。シートには(①発行日付順・資料名付帯あり)(②発行日付順・資料名付帯なし)(③分類順・資料なし)の3種類を作成しております。

イ)上記にあわせて索引(検索)簿を別途作成し、◇発行日(西暦・和暦)・発行号数・ページ数・表題・寄稿者名◇項目分類(個別1・現地研修2・事務局連絡3)◇テーマ別分類(A~V)※次頁③掲載項目分類内容参照を記載しました。

また、会報中の添付資料名(表・写真・図など)についても極力記載しました。

○索引(検索)簿から見た会報の発行数などについて

①150号までの主要計数

1	最新号数	150
2	最新ページ数	1,218
3	掲載項目数	959
4	平均ページ数	8
5	平均項目数	6
6	検索簿行数[参考]	1,791

②掲載項目数内訳

1	一般	752
2	現地研修	150
3	事務局報告など	57
合計		959

・150号(2019・4・1)発行までに47年5ヶ月経過しています。(当初発行日1971・9・1)
 ※第89号(1993・12・1発行)までは年4回発行、以後125号(2006・11・11発行)まではほぼ年3回発行と、現行(年2回発行)比かなり高い頻度で発行されています。(次に今回の作業により判明した会報発行数等の概要などについて記載しております。)

発行日・50号単位	西暦	和暦	和暦・月日	最終頁数	経過年月数 (直近50号から)	経過年月数 (累計)
第1号発行日	1971	S	46.9.1.			
第50号発行日	1984	S	59.1.1.	394	12年4ヶ月	12年4ヶ月
第100号発行日	1997	H	9.12.1.	800	13年11ヶ月	26年3ヶ月
第150号発行日	2019	H	31.4.1.	1,218	22年4ヶ月	48年7ヶ月

※1～89号までは年4回発行 以後125号まではほぼ年3回発行

その後はほぼ年2回発行と発行数は順次減少となっています。

※記載頁数は801号から「1～」に戻されています。

◇◇ 会報 『養老町の文化財』全号(150号まで)電子化にともなう主要件数などの状況です。◇◇

《配布方法などについて》

現在、会長・副会長・各部会のチーフにUSBを配布し試行的に利用をいただいております。会員様への配布方法については別途検討中です。

令和元年度
春の現地研修会

大津市歴史博物館・ 大津市曳山展示館・ 石山寺を訪ねて

広報・記録部会
若山 梨

はじめに

令和元年5月21日、参加者53名、バス二台で午前7時50分中央公民館を出発。

天候が心配されましたが、雨も上がり見学日和になりました。

私が乗車した1号車では、近藤理事から、研修の概要と石山寺と縁のある紫式部の源氏物語についての説明がありました。途中、大津サービスエリアで休憩、最初の研修地『大津市歴史博物館』へ向かいました。

①大津市歴史博物館

(大津市御陵町2番2号)

博物館は、平成2年に開館、大津や近江の歴史や文化に関する展示・調査活動を行ってきています。

【常設展示室(テーマ展示)】1階

大津を地域的な視点から紹介するエリアにて、近江大津宮、堅田・

坂本・大津百町、膳所の街並み模型のほか、大津絵や近江八景など文化・産業に至るまで、実物資料とともに紹介しています。

◇「近江大津宮」について

飛鳥時代に「天智天皇」が近江国滋賀郡に宮んだ都。天皇崩御後朝廷の首班となった大友皇子(弘文天皇)は、672年壬申の乱で大海人皇子(天武天皇)に敗れたため、5年余りで廃都となりました。(発掘調査による大津宮の復原模型の展示がありました。〈後掲写真〉)

【原始・古代・中世・近世・近現代

(歴史年表展示)】2階

縄文時代の石山貝塚、室町時代の観音巡礼、明治期の蒸気船や鉄道、大津事件などを紹介しています。

今回の研修では、当博物館学芸員の高橋さんから「戦国時代の大津の城」について、説明がありました。〈写真参照〉

『坂本城』

1571(元龜2)年、比叡山焼打ち後、織田信長の命により、明智光秀が比叡山延暦寺の監視と琵琶湖の制海権の獲得のため築城されました。

明智光秀は、1582(天正10)年「本能寺の変」の後山崎の戦いで敗れ、その後坂本城を目指している途中山城國小栗栖周辺で百姓らに襲われ死去したと伝わりまます。

変の後、安土城の守備にしていた光秀の家臣明智秀満は、光秀が山崎の戦いで敗れたことを知

り坂本城に移り、その後自害し落城しました。

城は、大津市下坂本3丁目、坂本城址公園内にあります。

来年の大河ドラマ「麒麟がくる」は、明智光秀が主役ですが、ゆかりの指定文化財建造物はなく坂本城の石碑があるのみです。

『大津城』

1586(天正14)年豊臣秀吉は、坂本城を廃城とし、浅野長政に命じて坂本城の具材を使用し、新たに



〔近江大津宮復原模型〕



〔大津市歴史博物館 高橋学芸員の説明に聞き入る参加者〕

築城させています。最後の城主は京極高次でした。「大津城の戦い」

関ヶ原の戦い(1600(慶長5)年)で、高次は東軍に属して、大津城に籠城した。慶長5年9月7日西軍は、大軍をもって包囲攻撃を開始した。京極軍は、奮戦し持ち堪えたが二の丸まで占拠された。京極勢は、仲介を受け入れ9月15日降伏、開城しました。

高次は一命を助けられ高野山へ出家した同日は、関ヶ原の戦いのまさに当日であった。家康は高次が西軍を大津城に引き付け、関ヶ原へ向かわせなかったことを大いに称賛したということです。その後大名として復帰を許し、若狭一国を与えて功に報いました。

戦後に廃城となり、天守などが、膳所城や彦根城に移築されたと伝えられています。その後、大津には、京都・大阪に次ぐ大津代官所が置かれ東海道53次の最後の宿場町となりました。

『膳所城』

1601(慶長6)年、徳川家康が藤堂高虎に命じて築いた城です。膳所城が完成すると大津城から「戸田一西」が入城、膳所藩を立藩、1617(元和3)年跡を継いだ大垣藩と縁のある「戸田氏鉄(とだうじかね)」が、摂津国尼崎藩に移封になると、

「本多康俊(本多家の分家)」が入封。その後、藩主が次々と交代しました。1651(慶安4)年に「本多俊次」が入封すると藩主が安定し、13代220年間本多氏の居城として明治維新を迎えました。

1870(明治3)年「廃城令」により一早く廃城となり、膳所神社(本丸大手門)、篠津神社(北大手門)、

鞭崎神社(南大手門)に移築された城門が各々指定の重要文化財に指定されています。現在は本丸部分が「膳所城跡公園」として整備され、石垣がわずかに残されています。

『戦国の大津』大津市歴史博物館図録より



大津の城位置図(当日の配布資料)

◇(膳所)の地名の由来について

古くは陪膳浜(おものはま)といい、琵琶湖の新鮮な魚を宮廷に献上。つまり膳部をこしらえたところの意味です。

◇(瀬田の唐橋) : 急がば回れの語源

語源は室町時代の連歌師宗長の歌「もののふの矢橋の船は早けれど急がば回れ瀬田の長橋」です。橋の船は草津宿と大津宿を結んだ湖上水運、瀬田の長橋は瀬田の唐橋です。

当時京都へ向かうには、矢橋から湖路の方が瀬田の唐橋の陸路よりも近くて早いのですが、比叡山から吹き下ろされる突風により危険な航路だったため、このような歌が歌われました。

戦国の大津の城の変遷について、高橋学芸員の興味あるお話でした。
さて、二階の展示物で目に惹くものが、展示されています。

◇重要文化財「鴟尾(しび)」について

山ノ神遺跡4号窯跡(天津市一里山3丁目)

宮殿や寺院の屋根の両端に取り付けられ火除けのまじないとして用いられました。本展示品は、平成13年〜15年の発掘調査で出土しました。(写真参照)

同遺跡では、7世紀後半の須恵器を焼いた窯跡が4基確認され、その内の4号窯内から4基の鴟尾が見つかりました。

窯が崩れたことにより、焼成途中で放置されたものと考えられます。古代の鴟尾としては、奈良時代の唐招提寺金堂のものが著名ですが、それ以外では発掘調査の際破片で見つけることが多く、全体像を復元できるものは数少なく、復元できる4基もの鴟尾が見つかり、しかも巨大なものとして



〔展示されていた鴟尾(しび)・・・見学者比相当大〕

て注目を浴びています。

②大津祭曳山展示館 天津市中央1丁目2番27号

大津祭は、湖国滋賀の三大祭の一つに数えられ天孫神社の例祭に曳きだされる曳山行事で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

◇大津祭曳山展示館の概要

大津の誇る伝統行事である「大津祭(本年10月12〜13日開催)」の魅力を知っていただくテーマ館です。

【一階】 原寸大の曳山(西王母山)のレプリカ

〈写真参照〉を中心に、町並みを模した壁面により、大津の町の賑わいを再現。大スクリーンによる、祭当日の様子を紹介する映像やお囃子を体験できるコーナーがあり、「大津祭」を体感できる空間となっています。

【二階】 2カ月ごとに各曳山の懸装品(身送り幕や飾り金具)を展示

「明」時代の中国や、国の重要有形文化財に指定されているベルギーのタペストリーなどの貴重な渡来染織品が多く用いられ、金工品にも江戸期の名品が数多く残されている。絵画にも、京の都で活躍した四条派などの有名絵師のものが多く、それらは「京都祇園祭」に比肩するものと言われています。

【三階】 多目的ホールにて、地域の文化活動の拠点となっています。

◇(曳山とからくり)

大津祭りは、13基の曳山と3つの宵宮飾りで行

われる曳山行事です。曳山は、すべてからくりが載っていることと、大きな御所車の三輪形式が特色です。

◇(厄除け粽)

祭りで曳山から撒かれる、厄除けの粽(そう、ちまき)は、家の門口に懸けておくと、厄災を除けることが、出来ると言われています。牛頭天王伝説をもとにした、祇園祭の風習を取り入れたものですが、曳山から盛大に撒かれるのは、今では、「大津祭」だけになりました。当館のガイドさんから、『5月18日、19日は高田祭でしたね』と話がありました。大津に来て高田祭を知りの方に会い嬉しく思いました。

また、小学生50名程が見学に来ており、その姿を見て爽やかな気持ちになりました。



〔原寸大の曳山(西王母山)〕

③昼食 石山寺門前料理店「洗心寮」(瀬田川沿い)

以下の八種類の惣菜「近江のおばんざい」が少量添えられた「しじみ」を主にした昼食が好評でした。

〔食事内容〕ア.丁宇魁 イ.日野茶漬け ウ.近江牛肉味噌 エ.赤こんにゃく オ.湖魚佃煮 カ.比叡ゆばの和え物 キ.えび豆 ク.しじみしぐれと少量ながら湖産物など多彩でした。

④石山寺 大津市石山寺1-1-1

東寺真言宗の寺院。聖武天皇の勅令により(749(天平勝宝元)年「良辯僧止」によって開基され、歴代朝廷の尊崇が厚く由緒ある寺院(西国巡礼一番の札所)です。

本堂(国宝)は、縣下木造建築のもので内陣は平安中期、外陣は淀殿の修補(慶長7年)になるものです。

堂内「源氏の間」は、紫式部が「源氏物語」を書いたところと伝え、本堂下の御堂は、蓮如上人の母が「石山観音の化身」だと言われるのでその形見と伝える蓮如鹿の子の小袖を安置しています。

多宝塔(国宝)は、美しい均斉美をもった鎌倉期の建築であり、鐘楼・大門(重文)は共に鎌倉



〔多宝塔(国宝：日本三塔の一つ)〕

「養老町の文化財」第151号

令和元年十月一日発行

発行者

養老町文化財保護協会

(養老町中央公民館内)

印刷

盛福印刷(株)

初期の建立のもので。〔写真参照〕

東大門

〔写真参照〕

をくぐり、

新緑につ

つまれた

石段を登

ると巨大

な硅灰石

(国の天然

記念物)が

眼前に現

われ、見上

げると多

宝堂(国宝)

が目にと

まります。

本堂(国

宝)にお参

りして、山

頂の『紫式部展』付

近まで散策後下りて

きました。

◇石山貝塚 大津市石山寺

辺町(いしやまてらべちよう)

縄文早期の淡水貝塚



〔石山寺(東大門)〈重文〉〕

ここでは、縄文期の土器や石器類・人骨などが発掘され、考古学研究の貴重な資料となっています。〔写真参照〕



石山貝塚史跡碑

午後二時石山寺を後にして、瀬田の唐橋を渡り湖岸道路の景色を車窓から眺めながら、最終訪問地「鮎の里」にて休憩し、お土産を買い彦根ICから高速道路に入り、近江の国を後にしました。最後に、小野会長の挨拶があり研修を終了。予定より早く午後5時30分には自宅に戻りました。

編集後記(ごあいさつ)

本年四月から、前任の椿井先生の後、会報の編集を担当しております、久保田隆基(くぼた たかもと)と申します。

若輩者につき十分な対応ができるか判りませんが、会員の皆様のご協力を得てやって行きたいと存じます。今後共、ご指導・ご鞭撻を宜しくお願ひ申し上げます。